

B 22

2637



畫學臨本

卷上

247

大日本圖書會			
七	五	二	類
三	二	一	
册	架	函	

19
2
128

K110.7
27

畫學臨本

本多錦吉郎著



東京圖書館

新門

六部

四類

號

不
函
架
號



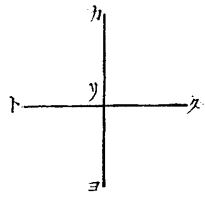
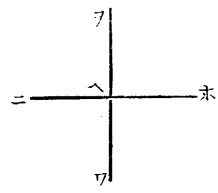
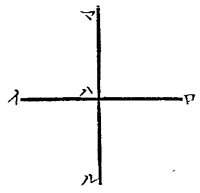
一	二	三
四	八	十
五	九	壹
六	十	壹
七	十	壹
ロ	ニ	ハ
チ	ヌ	フ
ヌ	ソ	ノ
フ	子	フ
カ	ラ	マ
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____

第一圖

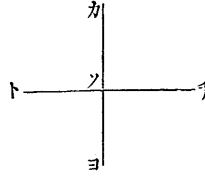
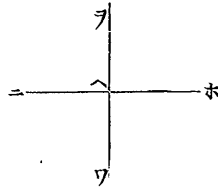
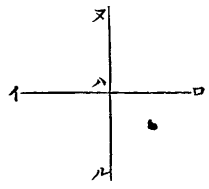
イ ハ ホ ト ソ ル ワ ヨ レ ツ ナ ム 井 オ ヤ ケ コ
一 二 三 四 一
ロ ニ ヘ チ ス ラ カ タ ソ ナ ラ ウ ノ ク マ フ エ

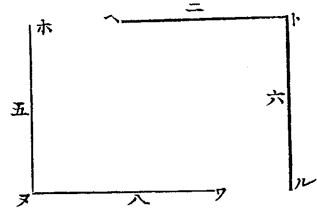
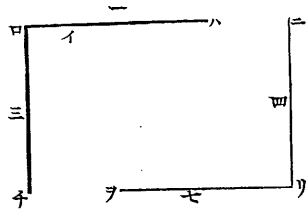
Vertical lines for writing practice, corresponding to the characters above.

第二圖

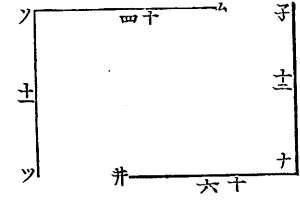
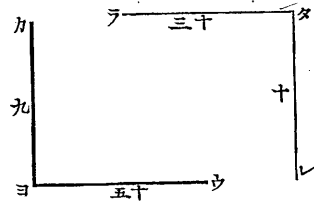


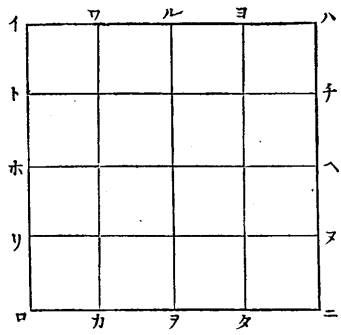
第三圖



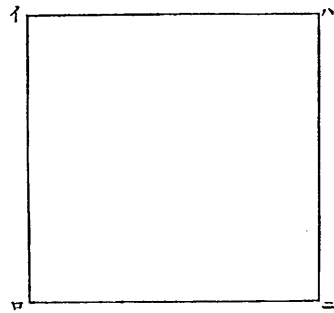


第四圖



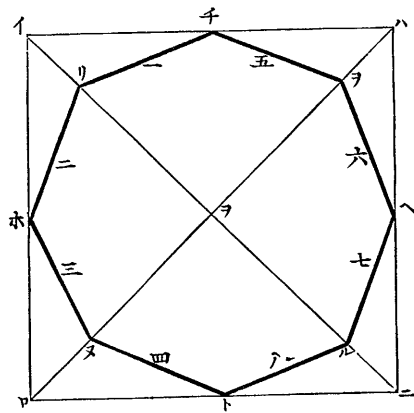


第六圖

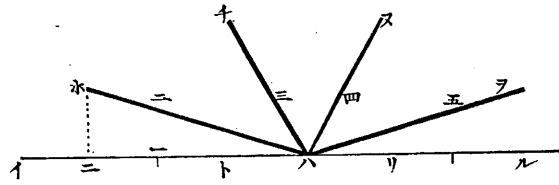


第五圖

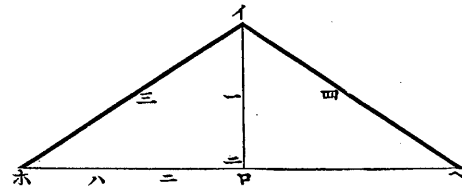
圖九第



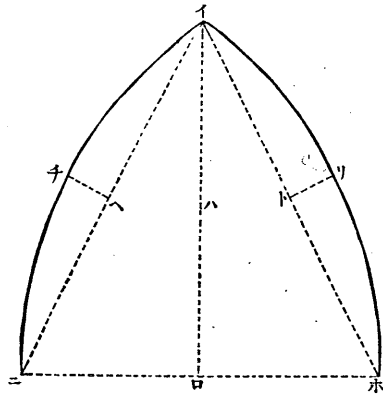
圖七第



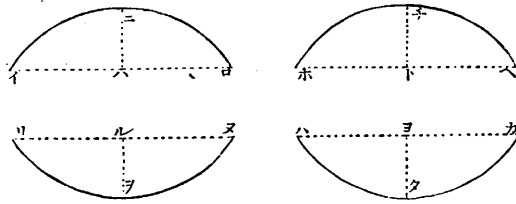
圖八第



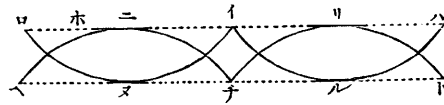
圖二十第



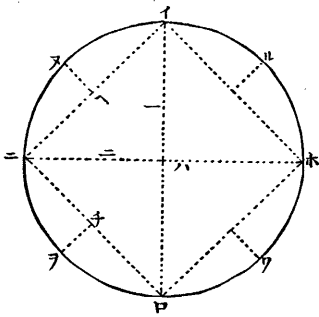
圖十第



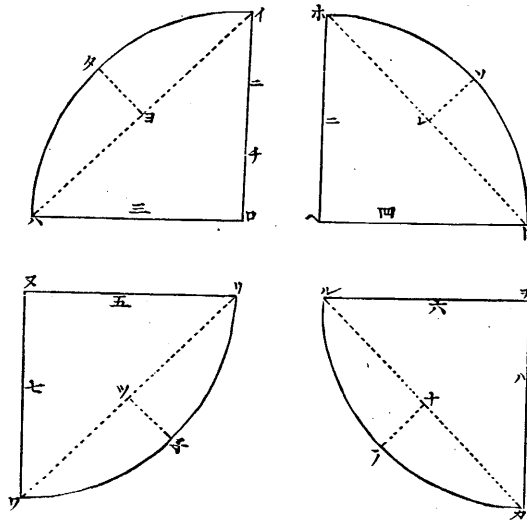
圖一十第



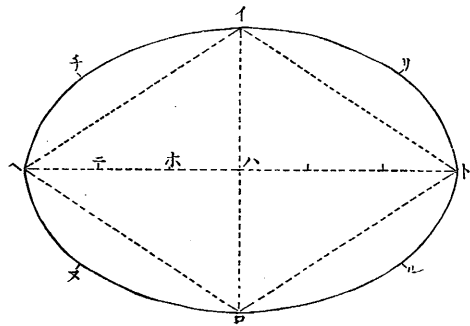
圖四十第



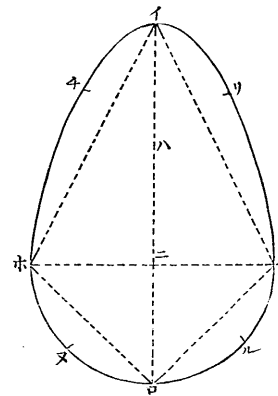
圖三十第



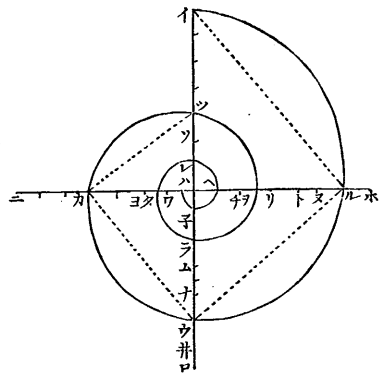
圖六十第



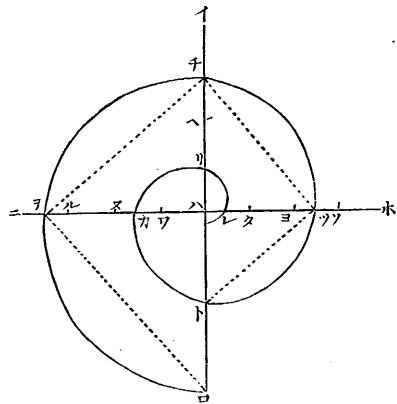
圖五十第



圖八十第



圖七十第



凡ソ物ヲ書カント欲スルニハ先ツ諸線條ノ引方ヲ習ヒ手腕ノ働ヲシテ自在ナラシムベシ直線弧線ハ恰物ヲ書クノ器機ノ如ク書學ノ基礎タルモノナリ故ニ此書第一號ヲ以テ諸線條ノ引方ヲ掲ケ次號ヨリ漸次ニ高等ノ臨本ヲ舉ゲント欲ス線ノ長短ヲ量ルニ度尺コンパス等ノ器機ヲ用ユベカラス必ス目分量ニテナスヘシ書紙ノ位置ヲ左右上下ニ動かサハ學者ノ便ニ任スト雖書紙ノ縁ト机ノ縁トハ常ニ相平行セシムヘシ斜線弧線ヲ引クニ手腕ノ働キ天然ニ戻ルコトアラハ程能ク畫紙ヲ轉スルモ可ナリ

第一號圖解

第一圖 此圖ハ平線相平行セルモノナリ其初先(イ)(ロ)并ニ數字ノ順序ニ從ヒ直線ノ丈ケト距離ヲ目分量ニテ計リ細少ノ點ヲ以テ正シク記號ヲナシ置クヘシ(イ)(ト)等ノ如キ平行ノ距離ハ線ノ丈ケノ四分之一トス(ロ)(ハ)等ノ如キハ線ノ半ニ同シ線ノ距離方向ニ誤失アラハ抹紙膠ニテ摩消シ正シク其位置ヲ定メ後點ト點ヲ連綴シ線ヲ引ク凡テ線ヲ引クニハ初其兩端ヲ記シ置クヘシ又線ノ太キト細キヲ別ツ臨本中(イ)(ロ)(ハ)點ヲ定ムルノ順序數字ハ線ヲ引クノ順ト知ルヘシ

第二圖 此線ハ縱線ノ平行線ナリ第一圖ノ如ク(イ)(ロ)(ハ)ノ順ニ從ヒ點ヲ以テ丈ト距離ヲ記シ其兩端ヲ正シク整列セシム

第三圖 此圖(イ)(ロ)(ハ)ノ順ニ依テ線ノ丈ト中央ヲ定メ平線ヲ先ニ引キ後ニ縱線ヲ引ク且ツ線ノ強弱ヲ分ツ

第四圖 此圖(イ)ノ點ヲ初トシ(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)ノ順ニ線ノ位

置ヲ定ム外部ノ線ヲ強クシ内部ヲ弱クス各線互ノ距離ハ其
半トス點ヲ定メテ後チ線ヲ引キ終テ他ノ點ヲ定メ線ヲ引キ
漸次諸線ニ移ルヘシ

第五圖 正方形ヲ畫クノ順ハ(イ)(ロ)ノ記號ニ從フヘシ

第六圖 此圖正方形ヲ十六ニ等分セルモノナリ其初メ平線
ヲ以テ横ニ方形ヲ切半シ次ニ其上下ノ部分ヲ又切半シ後縱
線ヲ以テ縱ニ切半シ其左右ノ部ヲ又切半ス

第七圖 此圖ハ斜線ノ引方ニシテ最初平線(イ)(ロ)ヲ引キ(ハ)
中央ヲ定メ(ホ)ヨリ(イ)(ロ)ノ線上ニ縱線ヲ乘レ(ニ)點ヲ得(ニ)ヨリ
(ホ)ノ距離ハ(ハ)ニノ線ヲ三分一ニ同シトス依テ(ハ)ニヲ三分
其一分ト(ホ)ニノ縱線ヲ同シカラシメ(ホ)ヲ確定シ(ホ)ノ斜線
ヲ引ク斜線ヲ引クニハ畫紙ヲ稍ヤ傾クルモ可ナリ其他(チ)(ヌ)
(フ)等ノ點ヲ得ルモ(ホ)ニノ如シ推テ知ルヘシ

第八圖 此圖ハ三角形ナリ(イ)(ロ)ノ縱線ハ(ハ)ニ等シ(ホ)ハ
(ハ)ニ等シク(ロ)ハノ半ナリ(イ)(ロ)ハノ順ニ從ヒ點ヲ定ム

第九圖 此圖ハ八角形ニシテ初メ正方形ヲ引キ四邊ノ中央
タル(ホ)(ヘ)(ト)チノ四點ヲ定メ(イ)(ニ)(ハ)(ロ)ノ斜線ヲ引キ此斜線ニ
(リ)(ヌ)(フ)ノ點ヲ定ム此四點ハ(フ)ノ中心ヨリ(ホ)(ヘ)(ト)チノ距離
ニ於ケルモノト相等シ

第十圖 孤線ヲ引クニハ(イ)(ロ)ハ(ニ)ノ平縱二線ヲ引キ三個ノ
點ヲ定ム縱線ノ丈ハ平線ノ四分一ニテ各孤線ノ互ノ距離ハ
平線ノ三分ノ一トス

第十一圖 此圖ハ第十圖ノ如キ孤線ヲ交互セシモノナリ

第十二圖 (イ)(ロ)ハ等ノ順ヲ以テ點及ヒ線ヲ定ム孤線ヲ引ク
第十三圖 (イ)(ロ)ハ等ノ順ヲ以テ點及ヒ線ヲ定ム孤線ヲ引ク

第十四圖 初(イ)(ロ)ノ線ヲ引キ(ハ)ノ中央ヲ貫キ同シ丈ケノ平
線(ホ)ニヲ引ク次ニ(イ)(ニ)(ハ)等ヲ連綴シ正方形ヲ作シ其四邊
ノ中央ヨリ其四分一ノ丈ヲ以テ縱線ヲ起シ八個ノ點ヲ得テ

圓ヲ畫クヘシ
第十五圖 (イ)(ロ)ノ縱線ヲ引キ(ハ)ニテ三分シ(ニ)ヲ貫キ(ホ)(ヘ)
ヲ引キ(ニ)(ヘ)ニ(ホ)ヲ(イ)(ロ)ノ三分一ト同シカラシム次ニ(イ)(ホ)(イ)
(ヘ)(ホ)(ロ)(ヘ)(ロ)ノ線ヲ引キ此四線ヨリ最モ隔リタル卵形ノ輪郭
ノ點ヲ求メ(チ)(リ)(ヌ)等ヲ定メ後チ孤線ヲ引クヘシ

第十六圖 (イ)(ロ)ノ縱線ヲ引キ(ハ)ノ中央ヨリ(ニ)ノ平線ヲ引キ
之ヲ(イ)(ハ)ノ丈ト同シカラシム此平線ヲ切半シ(ホ)ヲ得ヘ此線
ヲ(ニ)(ホ)ト同シ丈ニ(ヘ)迄延ヘ又(ハ)ノ線ヲ右ヘ同シ丈ニ延ヘ
(ト)ヲ定ム其後(イ)(ヘ)(イ)(ト)(ロ)(ト)(ロ)ノ四線ヲ引キ此諸線ヨリ最
隔テタル橢圓ノ輪郭中ノ點ヲ求メ(チ)(リ)(ヌ)ヲ記シ週圍ノ孤
線ヲ引クヘシ

第十七圖 (イ)(ロ)ノ線ヲ引キ(ハ)ノ中央ヲ貫キ(ニ)(ホ)ヲ引キ(ハ)(ニ)
(ハ)(ホ)ヲ(イ)(ハ)ト同シカラシメ(イ)(ハ)ノ中間(ヘ)點ヲ置キ(ハ)(ロ)ノ中
間(ト)(イ)(ヘ)ノ中間(チ)ヲ置ク又(ハ)ノ中間(リ)(ハ)ニノ中間(ヌ)(ニ)
ノ中間(ル)(ル)ニノ中間(ヲ)(ヌ)ハノ中間(ワ)(ヌ)ノ中間(カ)ハノ中
間(ヨ)(ヨ)ハノ中間(タ)(ハ)ノ中間(レ)(ヨ)ハノ中間(ツ)(ヨ)ノ中間(ツ)
等ノ諸點ヲ定ム斯ル點ノ中ニテ孤線ノ通過スヘキ點ハ殊ニ
強ク記シ置クヘシ(ト)ヨリ(ハ)ヘ引ク線ニハ別ニ規短ナシ畢竟

外部ノ孤線ヲ目的トナス故ナリ

第十八圖 前ノ如ク平縦二線ヲ引キ(イ)ノ順ニ點ヲ定ム
 (ハ)及ヒ(ハ)ノ最初七ニ分ツ(ハ)ノ線ニ於テ其七分一ナル
 (ヘ)點ヲ定メ後チ(ホ)ノ中間ニ(ト)ヲ置キ(ヘ)ノ三分ス次ニ(ト)
 (ホ)ヲ三分シテ(ヌ)ノ線ヲ定ム分割ノ誤ハ(ヘ)ノ兩點ヨリ生スヘ
 シ(チ)ノ中間ニ(ヲ)ヲ定ム他線ノ分割ニ於テ(ハ)ニノ線ナレハ
 (ワ)ハ恰モ(ハ)ノ線中(ヘ)ト相等シク(カ)ハ(ト)ヨハ(チ)ニ等シ(タ)ハ
 (ヨ)ハノ中間ニアリ他ハ推テ知ルヘシ

明治十一年十一月廿二日出板御届

定價拾三錢

畫工兼
出板人

東京今川小路壹町目三番地

本多錦吉



大坂心齋橋北久太郎町

柳原喜兵衛

東京神田雉子町

巖々堂

同芝太神前

山中市兵衛

同日本橋通二丁目

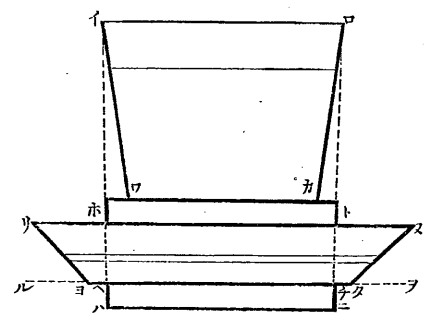
稻田佐兵衛

同三十間堀二丁目

稻田佐吉

同元數寄屋町四丁目
彰刺會社活版部

圖二第



圖一第

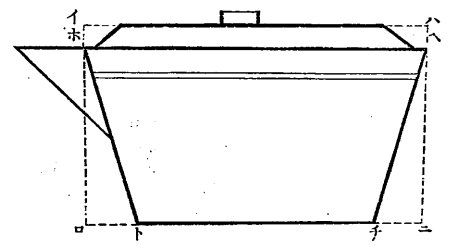


圖 三 第

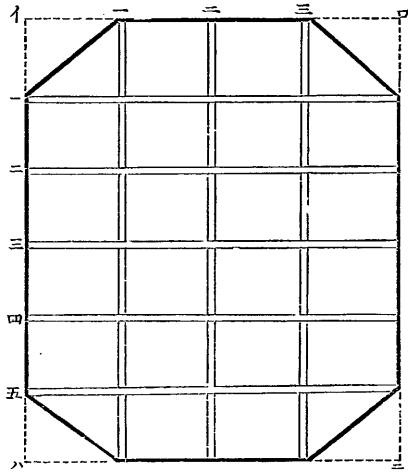
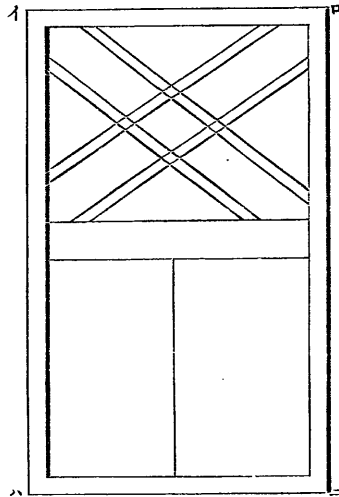
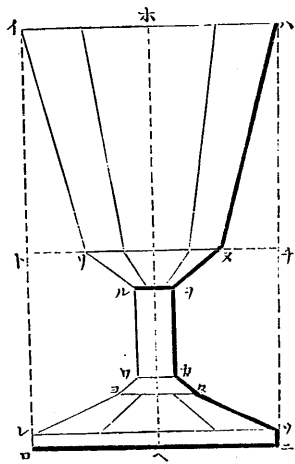


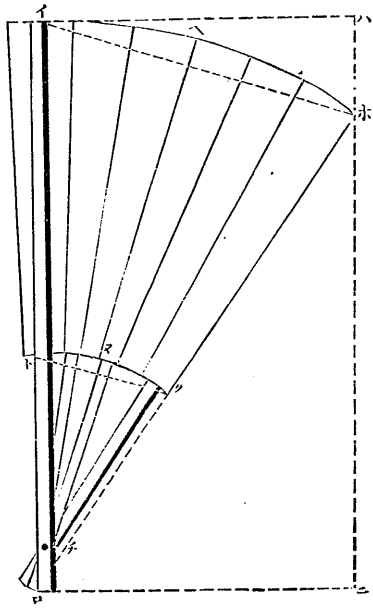
圖 四 第

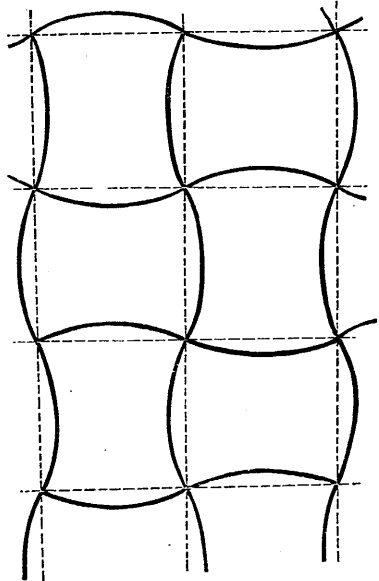


第五圖

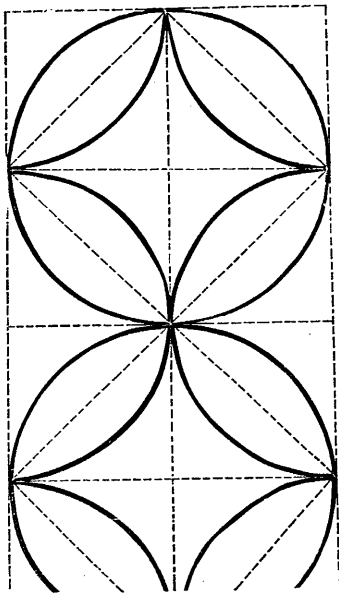


第六圖



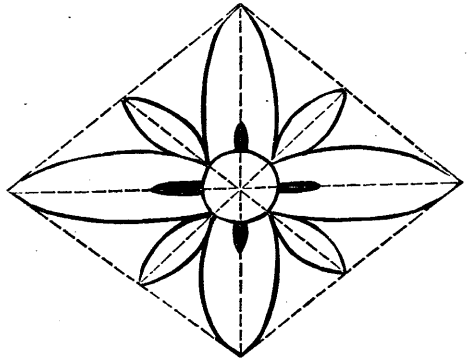


第七圖

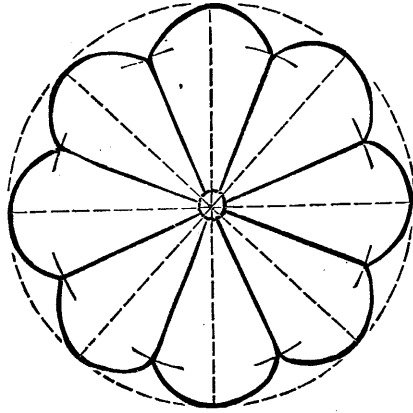


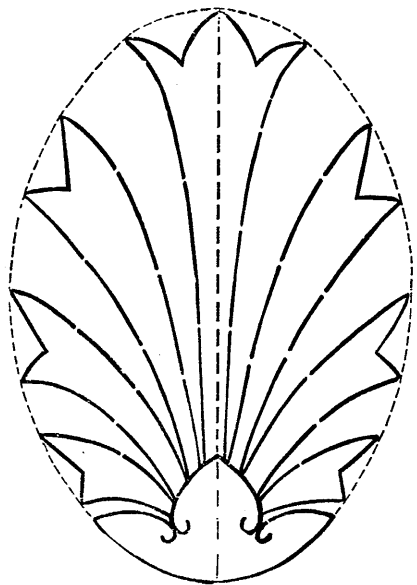
第八圖

圖九第

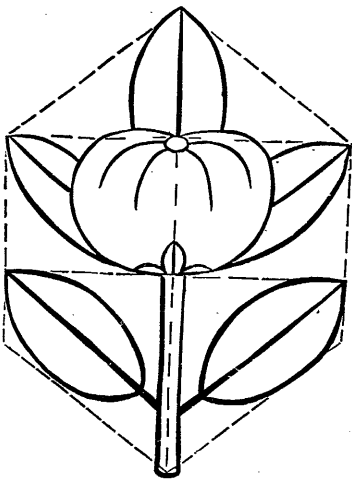


圖十第

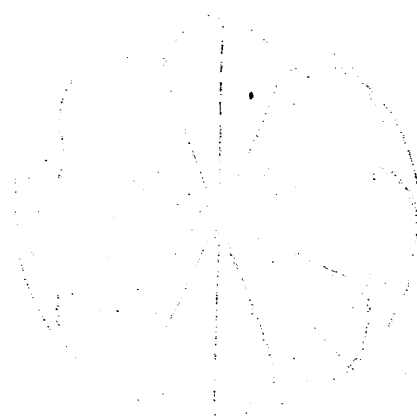


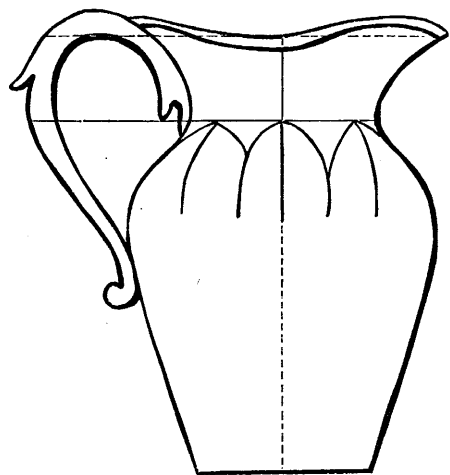


第十一圖

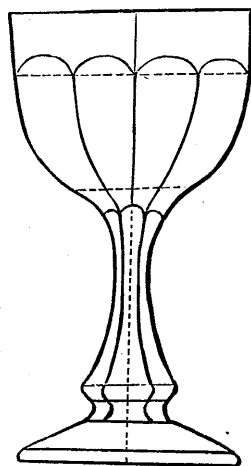


第十二圖





第十三圖



第十四圖

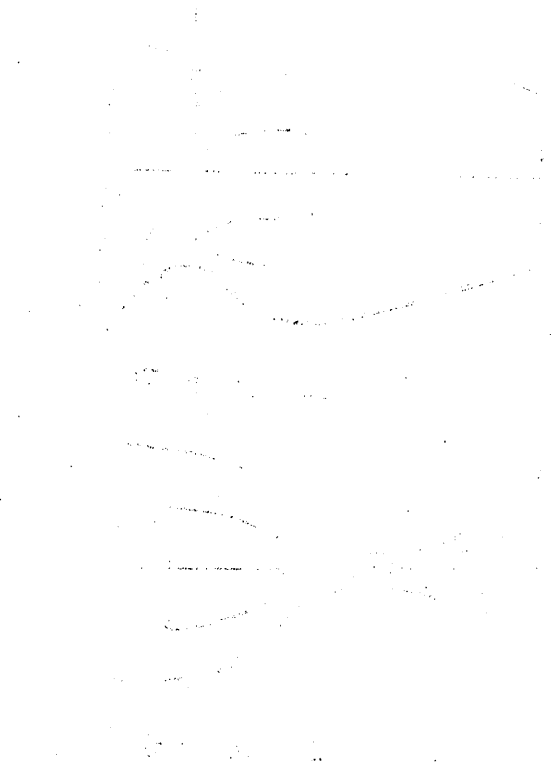
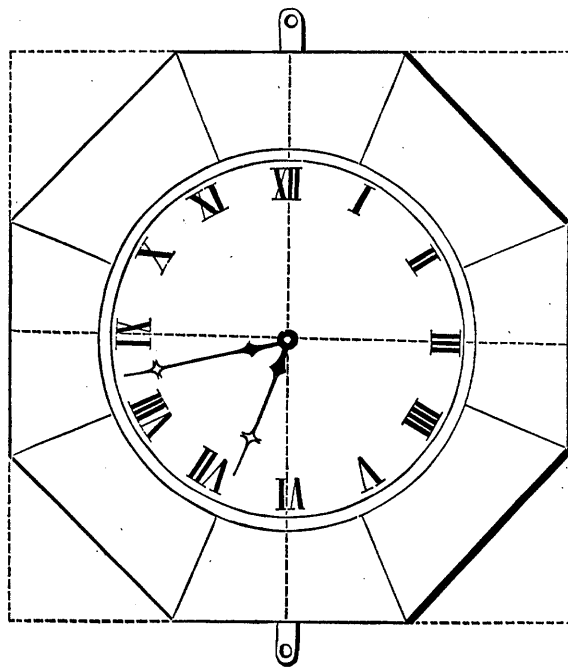
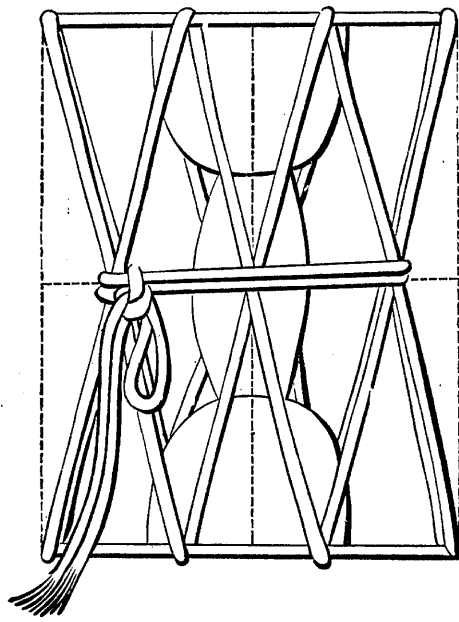


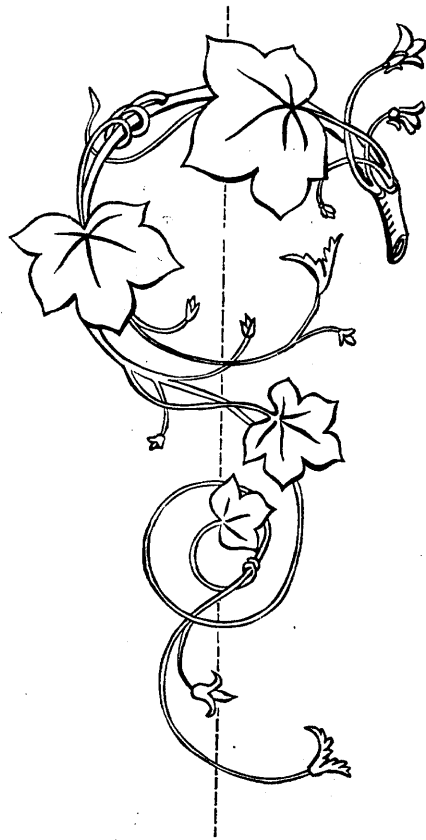
圖 五 十 第



圖六十第



圖七十第



附言

前號既ニ諸線條ノ引方并ニ其方向距離割合等ヲ定ムルノ方法ヲ舉ケタリ此號ニ於テハ斯ル方法ニ依テ撰寫スヘキ單一ナル物形ヲ舉ク
臨本中ノ諸物形多クハ立圖ト稱ヘ物ノ正面或ハ側面ノ内一面ノミヲ見タル圖ナリ凡テ斯ル圖ニ於ケル形体中ノ各部ノ長短廣幅ハ其實際ノ割合ニ正シク符合スルモノナリ諸器物ノ雛形ノ如キハ斯ル圖ニ依レハ其全形ヲ見且ツ割合ヲ定ムルニ便ナリ
畫ハ左ノ方ヨリ筆ヲ起スヘシ右ヨリ畫ク時ハ運筆ノ爲メニ最初畫キシ部ヲ損フヘシ故ニ臨本一葉毎ニ第號ノ順序逆ナルハ習畫ノ便ナランカ爲メナリ又臨本ノ虛線ハ學習ノ時細キ直線孤線ヲ用ユヘシ必ス切斷セル線ヲ用ユルニ及ハス

第二號圖解

第一圖 茶器ノ側面ヲ見タル形ナリ是ヲ畫クニハ先ツ(イ)(ロ)(ハ)ニノ長方形ヲ成シ茶器ノ大サヲ定メ(ホ)(ヘ)(ト)ナニテ器ノ實体ヲ畫キ次ニ蓋ト口ヲ畫クヘシ形体中ノ諸線ノ方向割合ハ第一號ニ示セシ如ク爲シ臨本ト些カノ差違ナカラシム且ツ線ノ強弱ヲ明瞭ニ分ツヘシ
第二圖 茶碗ヲ茶臺ニ据ヘタル圖ナリ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ノ長方形ヲナシ(ホ)(ヘ)(ト)ヲ貫キ(リ)(ヌ)(ル)(フ)ノ平行線ヲ引ク次ニ(ワ)(カ)ニテ茶碗ノ形ヲ畫キ(ヨ)(タ)ニテ臺ノ形ヲ成ス
第三圖 窓ノ形ナリ初メ長方形ヲ成シ是ヲ二十四個ニ分チ(第一號第六圖ノ如シ)其四隅ヲ切ル總テ輪郭ヲ引クニハ初ハ

細ク引キ全体ノ割合臨本ト能ク相類似セル後ヲ強ク引キ直スヘシ

第四圖 障戸ノ形ハ長方形ヲ元トシ其内ニ平行線ヲ引キテ戸ノ縁ヲ作り次ニ中央ノ棧ヲ定メ終リニ拵子ト腰板ノ形ヲ畫クヘシ

第五圖 コツブノ形モ亦長方形ニ基キ其中央ヲ縦ニ分ツ(イ)(ロ)ハノ順ニ全体ヲ定メ後ニ六角ヲ示スヘキ斜線ヲ引ク

第六圖 扇子ノ形ニシテ長方形ノ上際ヲ斜メニ斷ツヲ初トシ(イ)(ロ)ノ親骨ヲ畫キ其中央ヨリ稍ヤ下ノ方ニ(ト)點ヲ置キ(ロ)點ヨリ(ホ)ニ向ケ斜線ヲ引ク又(イ)(ホ)ニ平行セル(トリ)ノ線ヲ引

キ次ニ(ヘ)(ヌ)ノ點ヲ定メ(イ)(ホ)及(ヒ)(ト)(ス)(リ)ノ孤線ヲ畫キ後チ巨細ノ部ニ移ルヘシ第一圖ヨリ第五圖ニ至ル迄ハ皆直線ヨリナレル形状ナレバ爰ニ至リ孤線ヲ結合セリ次ノ圖ヨリハ

孤線ヨリ成レル形状ヲ掲ク

第七圖 鳥袴ト稱ヘ官服杯ニ用ヒタル模様ナリ初數個ノ正方形ヲ作り其邊線ニ基キ孤線ヲ引キ以テ形ヲ整フ

第八圖 七寶織ヲ畫クニハ前圖ト同シク數個ノ正方形ヲ作シ斜線ヲ以テ孤線ノ方向ヲ定ムヘシ

第九圖 初メ菱形ノ中ニ平縦ノ二線及ヒ二個ノ斜線ヲ引キ孤線ノ規矩トス

第十圖 圓ヲ畫キ直線ヲ以テ之ヲ十六ニ等分シ後チ八個ノ孤線ヲ引キ全形ヲナス

第十一圖 初メ橢圓ヲ畫キ中央ニ縦線ヲ引キ模様ノ葉末相觸ルヘキ點ヲ橢圓ノ週圍ニ記スヘシ總テ斯ノ如キ形ハ左右

ノ平衡能ク整フヲ主トス故ニ先ツ縦線ヨリ左ノ方ヲ全ク整ヘ然ル後チ右ノ方ヲ畫キ全体ノ平衡ヲ整フヘシ

第十二圖 六角ヲ作り中央ニ縦線ヲ引キ又二個ノ平線ヲ引キ圖稿ヲ起ス

第十三十四圖 平縦二線ヲ以テ形狀ノ廣幅ヲ定メ點ヲ以テ諸處ニ目的ヲ印シ全体ヲ畫クヘシ總テ臨本ヲ寫スニハ臨本ノ各部ト我カ畫ク圖ニ注目シ互ニ相比較シテ能ク各部ノ平衡ヲ計リ些カモ差違ナキヲ要ス

第十五圖 時計ノ形ハ八角ノ内ニ圓ヲ引キ其週圍ヲ十二ニ等分シ後チ巨細ノ部ニ及フ

第十六圖 鼓ノ形ハ胴ヲ初メニ畫キ次ニ上下ノ皮ノ縁ヲ定メ又中央ノ紐ノ位置ヲ定メ後チ縹タル紐ノ方向ヲ定ム總テ

紐杯ヲ顯スヘキ二線ノ間へ最初引キタル線ノ横切りタル處ハ抹紙膠ニテ消シ去ルヘシ斯ル部ハ豫メ線ヲ細ク引キ置キ

位置整頓セル後チ強ク引キ直スヘシ

第十七圖 蔓ノ模様ハ先ツ縦線ヲ引キ蔓ノ莖ノ通過スヘキ點ヲ記シ孤線ヲ以テ莖ヲ畫キ葉ハ後ニ畫クヘシ

明治十一年十二月廿五日出版御届

定價拾三錢

畫工兼
出版人

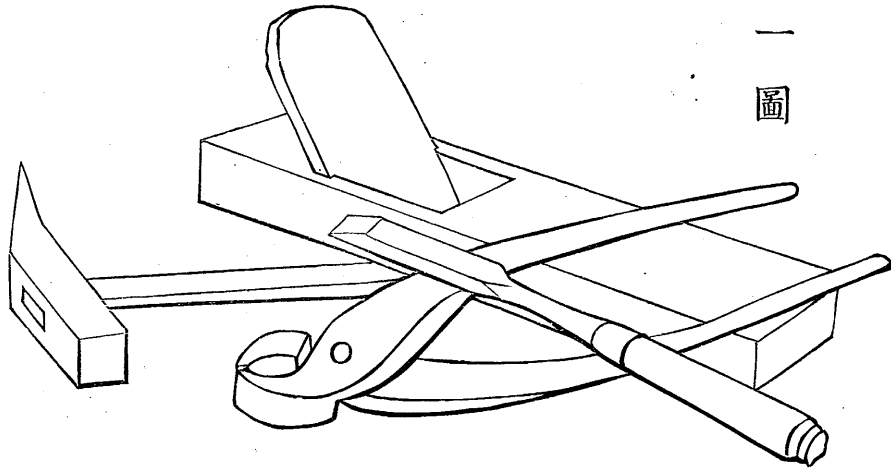
東京今川小路壹町目三番地
本多錦吉



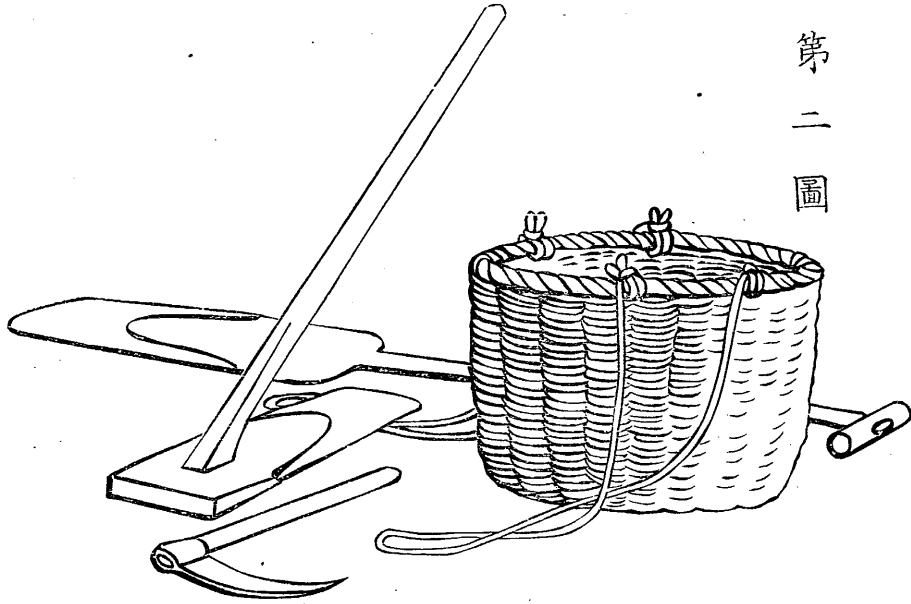
賣

大坂心齋橋北久太郎町
柳原喜兵衛

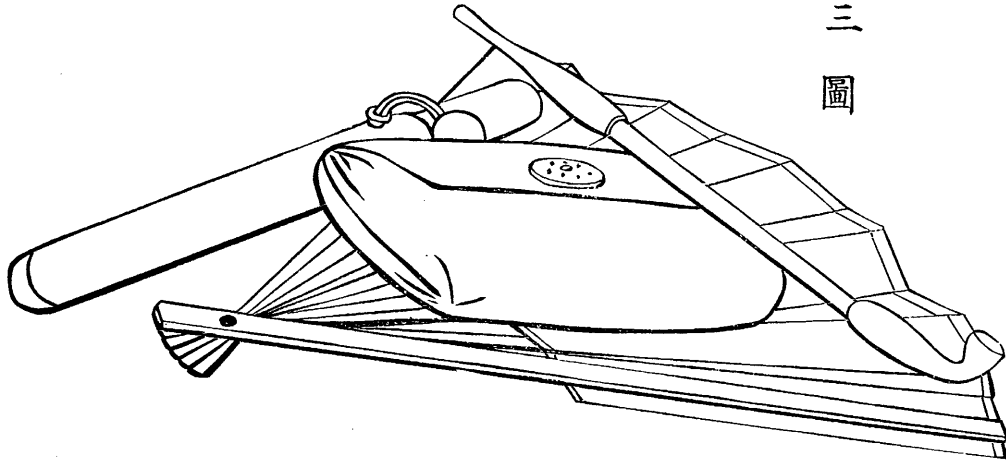
第一圖



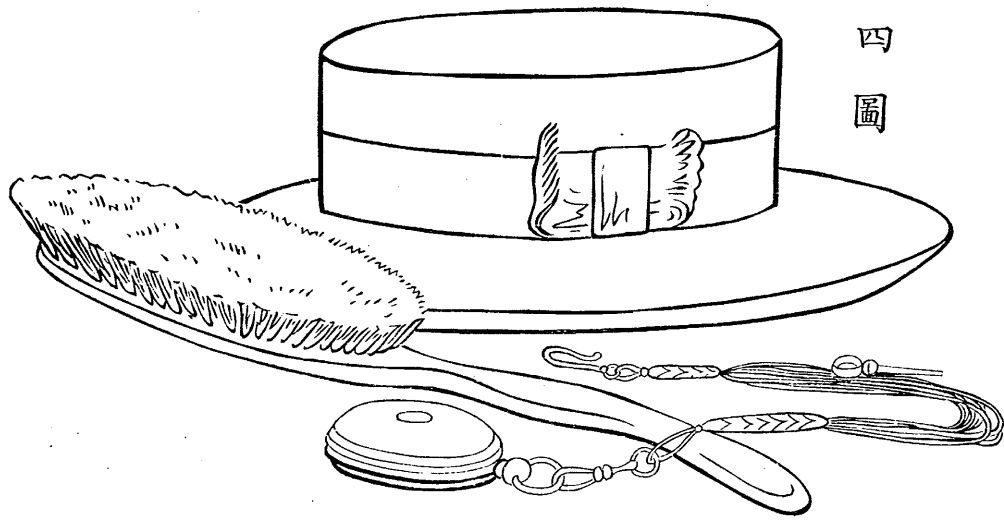
第二圖



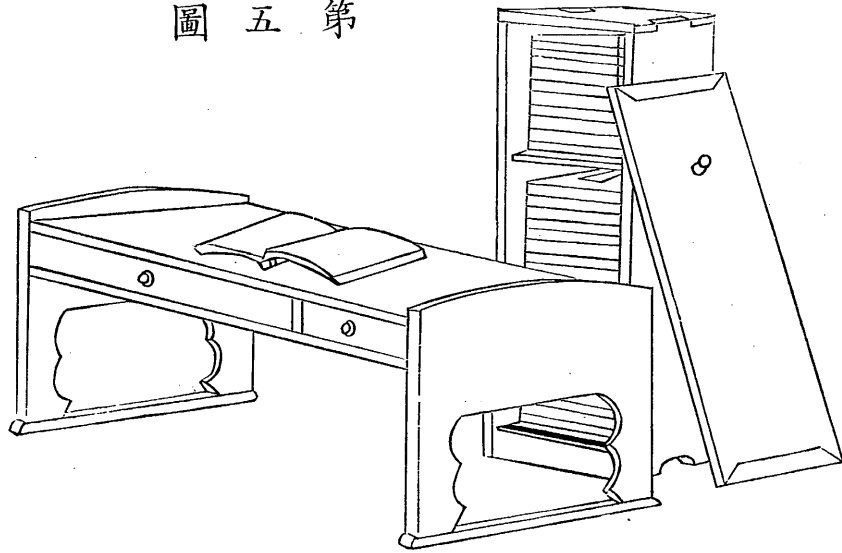
第三圖



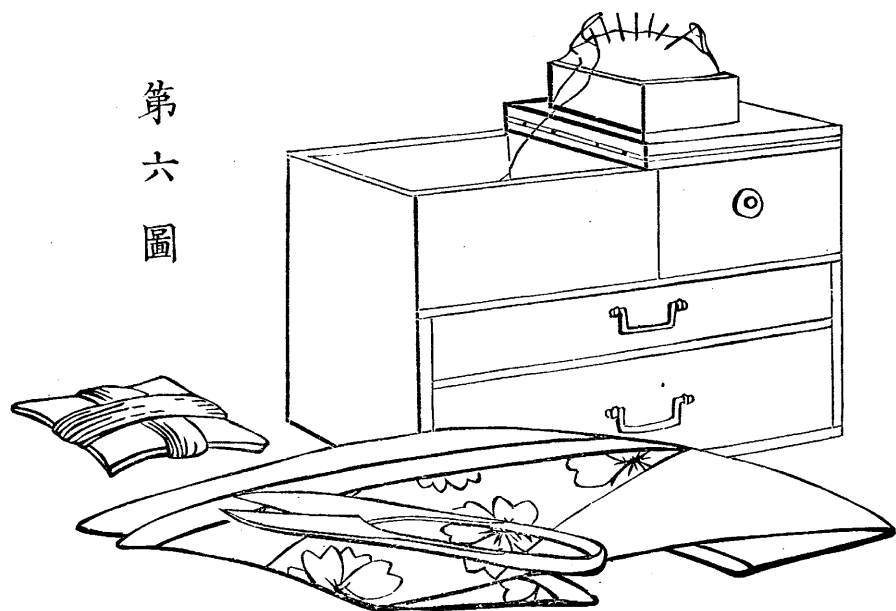
第四圖



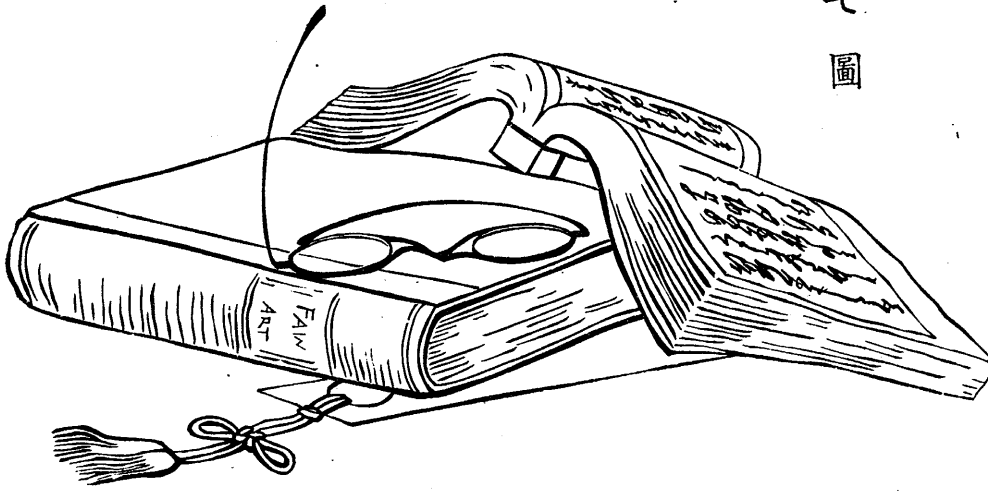
第五圖



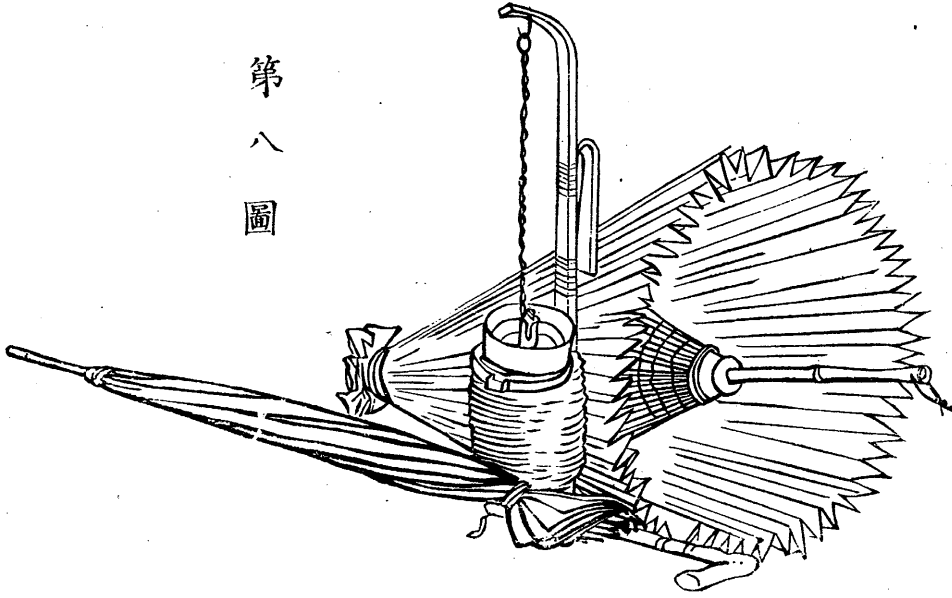
第六圖



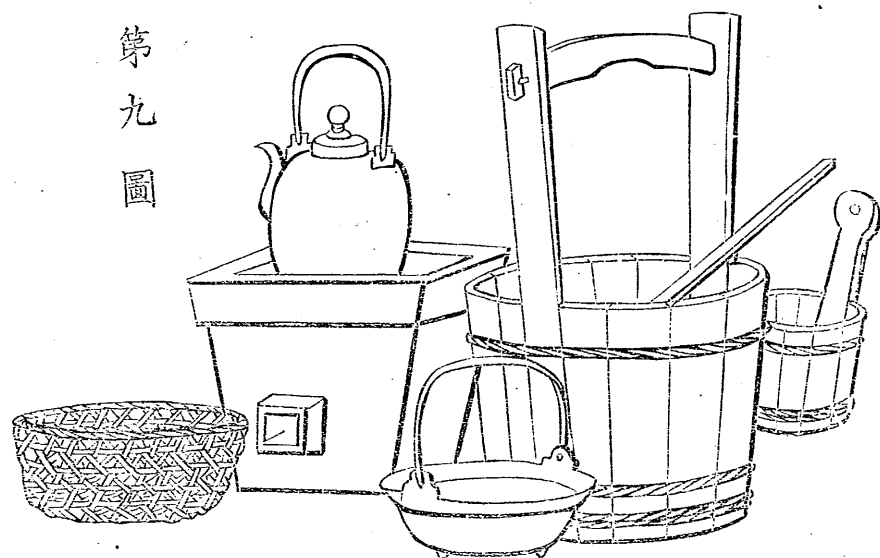
第七圖



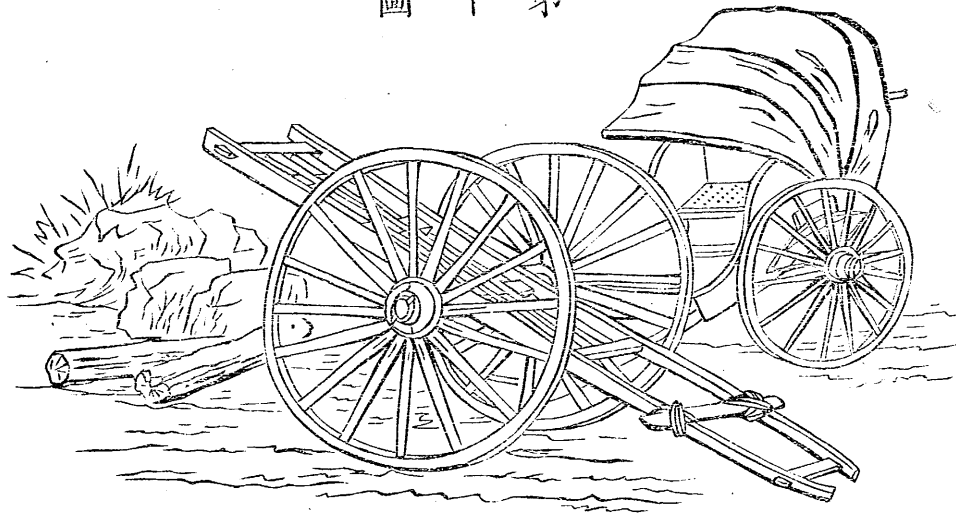
第八圖



第九圖

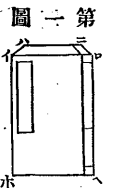


第十圖



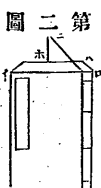
凡ソ物ヲ畫シニ概略ニ類アリ其一ハ一目中ニ見ル儘ノ形ヲ畫キニハ其物ニ就テ想像セル形ヲ畫ク等是ナリ地圖建築圖器械圖ノ如キハ專ラ其形狀各部ノ廣狹厚幅ノ割合ヲ圖中ノ形ト相符合セシムルヲ主トシ物ニ就テ想像セル圖ナリ一目中ニ見ユル儘ノ形ヲ畫クハ即チ物形ヲ一定ノ地ヨリ望ミ目ニ相感シタル形狀ヲ模寫スルニアリ此書載スル處ノ臨本ハ即チ目ニ感シタル儘ノ物形ニシテ總テ斯ル圖ハ遠近法ニ則リ物形ノ目ニ感スルニ當リ其輪圍ノ線條及ヒ其面ノ形狀ニ關係セル定則アリ學者像メ斯ル定則ヲ辨ヘ然ル後チ臨本ヲ模寫スルヲ要ス

第一則 正面ニ望ミタル線ハ其固有ノ位置ニ見ユ又正面ニ望ミタル面ハ其固有ノ形ニ見ユ



第一圖ノ閉シタル書ヲ我カ前ニ縦ニ据ヘ其表紙ノ一面ト上際ノ部ヲ見ルモノトセハ第一圖ノ如ク見ユヘシ(イ)(ロ)及ヒ(ホ)(ヘ)ノ線ハ其固有ノ位置ニ見ヘ其面モ亦固有ノ形ニ見ユヘシ

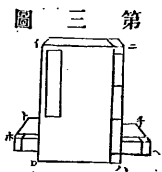
第二則 傾ケテ望ミタル線及ヒ面ハ短縮スヘシ彌々傾ケハ彌々短縮ス



第一圖ノ如キ書ノ(ニ)ナル表紙ノ角ハ(ロ)ヨリ稍ヤ左ニアルカ如ク見ユ今此(ハ)(ニ)ノ表紙ヲ開キ目ヲ(イ)(ロ)ノ線ニ着スル時ハ(ニ)ノ角ハ(イ)ノ角ニ漸々近ツクカ如ク見ユヘシ即

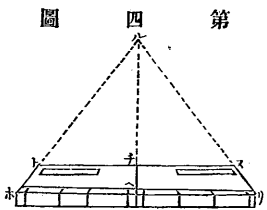
ナ第二圖ノ如シハ(ハ)ヨリ(ホ)迄ハ表紙ノ幅ノ顯狀ニシテ四十
五度程ノ角ニ開ケハ前ノ幅ノ半ト成ルヘシ彌々之ヲ閉キ
殆ントイ(ロ)ト正角ヲナスヘキ位置ニ至レハ第六圖ノ如ク
ナルヘシ

第三則 同丈ノ線ヲ不同ノ距離ニ見レハ其丈不同ニ見ユ距
離隔ルニ從ヒ其丈短縮ス



二冊ノ書ヲ第三圖ノ如ク摺ヘ置ク時
ハ(ホ)ヘ(ト)ノ線ハ正面ヲ顯スト雖モ
見ル處ノ距離ハ不同ナリトノ角ハ(イ)
(ロ)ノ線ニ對シ稍ヤ左ノ方ニアリ又(チ)
ハ(ハ)ヨリ(ニ)ハニ對シ稍ヤ右ノ方ニア
リ故ニ(ト)ノ(チ)ハ(ホ)ヘヨリ短カク見ユ

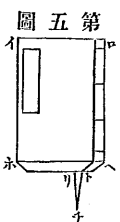
第四則 平行線ヲ其一端ヨリ見レハ他端ハ目ヲ離ル、ニ從
ヒ互ニ接近ス離ル、ヲ甚シケレハ遂ニ一點ニ合ス



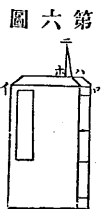
第四則ノ如ク二冊ノ書ノ下際ヲ相接
シ平カニ摺ユル時ハ(ト)ノ(チ)ノ線ハ
(ホ)ヘ(ハ)ト同丈ナレトモ同丈ニ見ヘ
ス故ニ(ホ)ノ(ト)ノ(ハ)及ヒ(リ)スノ二線ハ元
來平行線ナレトモ相互ニ接近スヘキ
理アリ若シ此三線ヲ押フル時ハ遂ニ
一點ニ集合スヘシ

第五則 平線ヲ其一端ヨリ目ノ上ノ方ニ見レハ他端ハ目ヲ
離ルニ從ヒ下ノ方ニ傾クヘシ又之ヲ目ノ下ノ方ニ見レハ
上ノ方ニ傾クヘシ異ノ平線ト見ルハ目ト水平ヲ保ツ時ニ

於ケルノミ



一冊ノ書ヲ目ヨリ六寸程上ノ方ニ捧ケ第五圖ノ如ク表紙
ノ一面ヲ我カ正面ニ對セシメ他ノ一
面ヲ開キ(ホ)ヘ及ヒ(ト)ノ線ヲ正シク
水平ノ地位ニアラシム然ル時ハ(チ)ノ
ノ線ハ短カケレトモ眞直ニ見ヘ
(チ)ノ角ハ(ト)ヨリ低ク(ト)ノ線ハ退クニ從ヒ下ノ方ニ傾ク
ヘシ今又右ノ書ノ地位ヲ變シ(ホ)ヘ(ト)ノ線ヲ目ト同シ水
平ニ保ツ其水平正シケレハ此二線ノ各處ノ點ハ假令ヘ退
クモノアリト雖モ悉皆同一ノ水平ヲ保ツヘシ



又此書ヲ六寸程目ヨリ下ケ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)
ノ線ヲ水平ニ保ツ時ハ(ロ)(ホ)ハ眞直ナ
レトモ(ニ)ノ角ハ(ハ)ヨリ隔カ高ク(ニ)ハ
ノ線ハ退クニ從ヒ上ノ方ニ傾クカ如ク見ニ臨本ヲ畫クニ
當リ其輪圖ノ線條ノ方向ヲ右ノ定則ト照シ會スヘシ

第二號ノ臨本ニハ圖解ヲ以テ諸物形ヲ摸寫スヘキ方法ヲ舉
ケ學者ヲシテ豫メ畫ノ稿ヲ起スヘキ目的ヲ了解セシメタリ
故ニ此號ニ至リテ別ニ圖解ヲ舉ケス畫稿ヲ起スニハ一定ノ
法則ヲ要セス特ニ簡便ナル方法ヲ工夫シ速カニ物形ノ概略
ヲ採リ然ル後精細ナル部ニ至ルヘシ物形ヲ摸寫スルニハ眼
目手腕ヲ互ニ能ク相應セシメ其形狀及ヒ位置臨本ト能ク相
類似スルヲ緊要トス第一圖ノ中鑿ノ形ヲ畫クニ其位置全體
及ヒ各部ノ長短厚幅ニ深ク注意シ些カモ差違ナカラシムヘ
シ些カ異ナル處アレハ臨本ノ形ニアラス臨本ノ形ニ基キ他

ニ二種ノ形ヲ想像シテ畫キタルト同一ノ理ナルカ故ニ臨本
ヲ摸寫セシト云フヘカラス學者細心留意シテ習練セサレハ
後來寫生ヲナスニ當リ悔ユルコアルヘシ

明治十一年十二月廿五日出版御届

定價拾二錢

畫工兼
出版人

東京神田區今川小路壹町目三番地
本多錦吉



大坂心齋橋北久太郎町

柳原喜兵衛

東京神田區雉子町

巖々堂

同芝區太神前

山中市兵衛

同日本橋區通二丁目

稻田佐兵衛

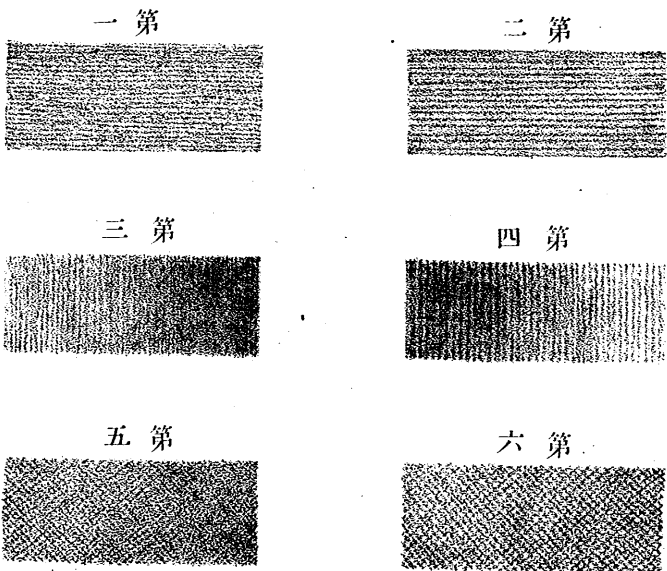
同京橋區三十間堀二丁目

稻田佐吉

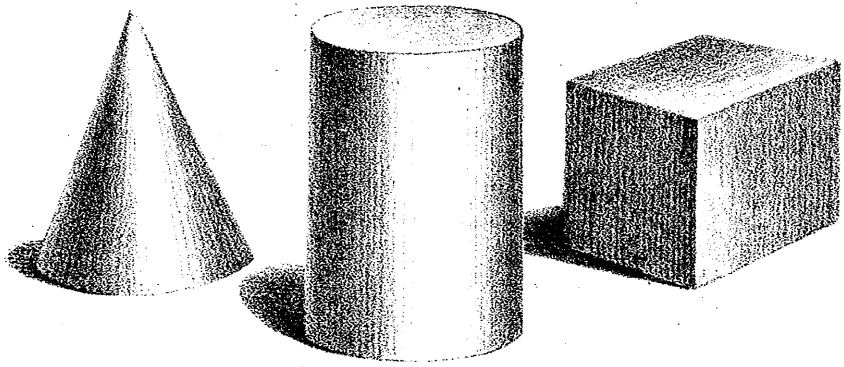
同同元數寄屋町四丁目

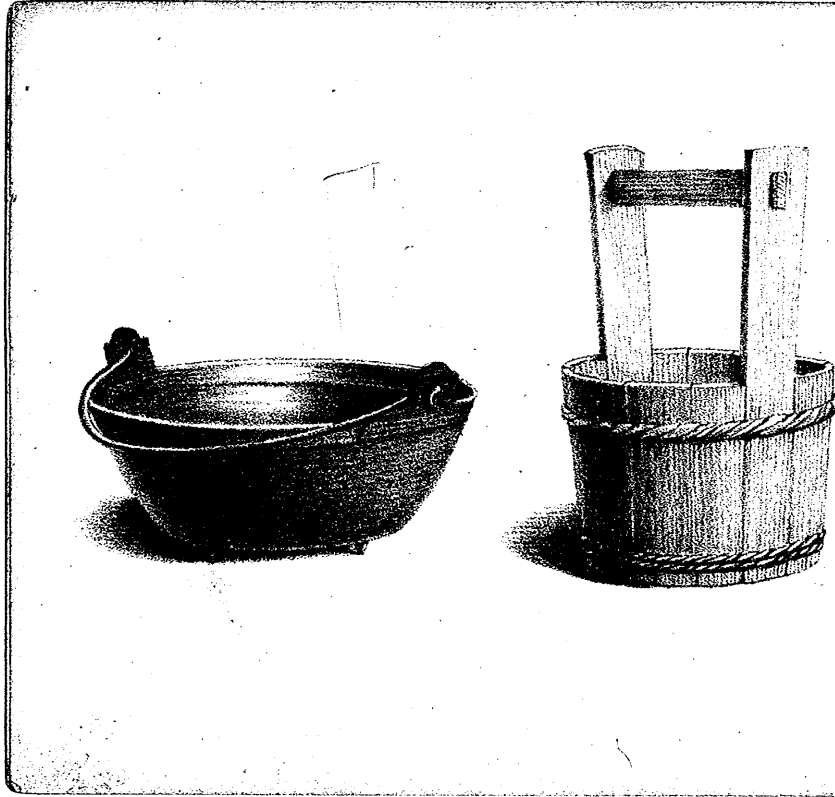
彫刻會社活版部

第一圖



第二圖





第三圖



第四圖

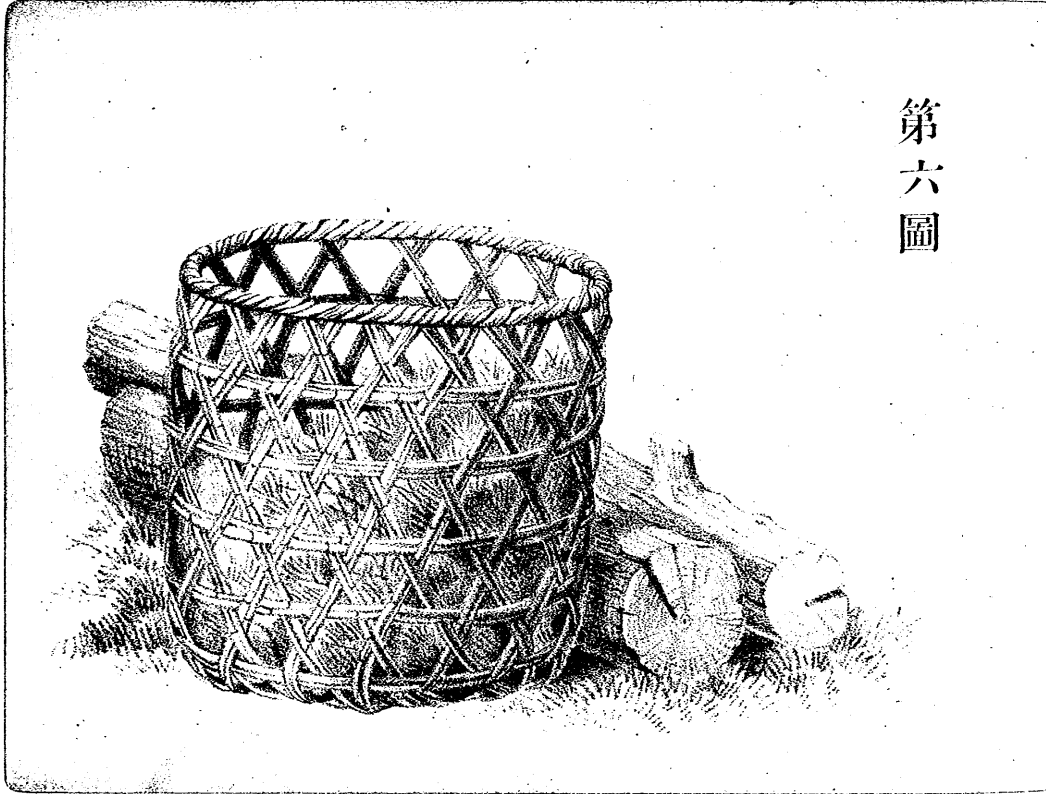
茶瓶ノ把手右ニアル可キヲ誤テ左ニ畫
ク再版ノ日改正スヘシ看者之ヲ諒セヨ

後
者
著



第五圖

第六圖



附言

一物形ヲ畫キ陰陽ヲ施スハ其形ニ遠近高低ヲ與ヘ紙面ニ隱^{カク}起^{カス}シムルノ手^テ術^{ダテ}ニシテ畫學ニ於テ最緊要ナル一課ナリ陰陽ヲ設シルニ預メ心得ヘキ定則アリ

第一 陰陽ハ物形ト覽者ノ距離隔ルニ從ヒ其濃淡ノ度減少スヘシ

第二 筒形圓錐形及ヒ圓體ノ如キ弧線ヨリ成レルモノ、陰陽ハ濃淡ノ區境漸次ニ分ル、モノナリ

斯ル物形ニ於ケル強烈ナル光ハ陽所ニ向カヘル輪郭ニ接セス稍ヤ内部ノ方ニアリ又深濃ナル陰影ハ陰ノ方ノ輪郭ニ接セス稍ヤ内部ニアルヘシ

第三 物形ノ陰影及ヒ其輪郭ハ其實體ヲ離ル、ニ從ヒ薄弱ナルヘシ且ツ實體ニ接近セル陰形ノ部ハ右ト相反シテ深濃ナルヘシ

圖解

第一圖 陰影ノ凡例ヲ舉ケタルモノニシ先ツ六個ノ長方形ヲ引キ左ノ如ク墨色ヲ施スヘシ

第一 此ノ陰影ハ平行接近セル線ヲ用ユ鉛筆ハ初メ細ク削リ指ニ保ナタル時筆鋒ノ紙ニ接スヘキ部ヲ他ノ粗荒ナル紙ニテ平カニ摩擦シ其平ク磨滅セシ所ヲ以テ線ヲ引クヘシ墨色餘リ薄弱ナレハ再ヒ其上ニ筆ヲ加フ若シ又墨色強クシハ其線ノ丈ト巾ニ應シ他ノ紙ニ薄ク切り抜キ其薄ニリ強キ線ヲ出シ絹切レカ柔カナル手拭ニテ輕ク墨色ヲ壓シ取り再三シテ其全面ノ色ト平均セシムヘシ但シ麵包

ヲ以テ擊シ取ルチ最モ良トス

第二 此陰影ハ平行線ヲ引キタル後チ尖リタル筆ヲ以テ線ノ間隙ノ部チ塗抹スヘシ

第三第四 陰影ノ濃淡漸次ニ分ル、趣ヲ示ス最初直線ヲ以テ全部ニ平等ナル陰影ヲナシ後チ尖リタル筆鋒ニテ深濃ナル部ニ漸次ニ淡薄ナル部ヘ移ルノ量ヲナスヘシ

第五第六 此陰影ハ斜線ヲ縱横ニ引キ線ノ互交セル間隙ハ尖リタル筆ニテ輕ク塗抹スヘシ第五ハ第六ヨリ墨色強カルヘシ

陰影ヲナスヘキ線ノ引方ハ各種ノ場所ニ一々相適中スヘキモノヲ掲クルト能ハス然レモ概略其方法ヲ定ムルニハ

陰影ヲ施スヘキ物ノ面ニ從フチ可トス故ニ表面水平ナレハ平線ヲ用ヒ垂面ニハ縦線ヲ用ユ斜面弧面等モ亦夫々ノ線ヲ用ユ

第二圖 立方體圓柱及ヒ圓錐體ヘ陰陽ヲ施シ實體ト相類似セシメタル趣ヲ示ス前條ニ述ヘタル陰陽ノ定則ヲ參考スヘシ

第三圖 此圖ハ手桶ニ鐵鍋ヲ摸シタルモノニテ最初ハ第三號ニ示セシ如ク精密ニ輪郭ヲ引キ形狀全ク整ヒタル後チ陰陽ヲ布クヘシ又陰陽ヲ施スニハ物ノ性質ニ注意スルチ要ス手桶ノ陰影ハ鍋ヨリ粗荒ニシテ色薄ク鍋ハ色濃クシテ筆痕ヲ稍ヤ密ナラシム又鍋ハ黒キ色ナントモ内部ハ稍ヤ光澤アルチ以テ光輝セル部チ白クナスヘシ

第四圖 土瓶ニ茶碗ヲ配列セルモノニテ黒キ土瓶ノ光澤アル趣ヲ能ク寫スヘシ斯ル光澤アル物形ノ陰影ハ尖リタル

筆ヲ以テ精密ニ塗抹シ線條ノ痕跡顯ハレサルチ要ス

第五圖 水指ニ盆栽ノ圖ハ初メ水指ノ輪郭ヲ引キ次ニ盆栽ヲ畫シ陰影ハ少シシテ光澤アル趣ヲ顯スチ要ス

第六圖 此圖ハ目籠ノ傍ニ木材ノ横リタル趣ヲ摸シタルモノニテ前條ノモノトハ其形狀稍ヤ不規則ナリ初メニ輪郭ヲ畫キ後チニ陰影ヲ施シ最後ニ下邊ノ草ヲ畫シ草杯ハ其形ニ意ヲ注カスシテ筆勢ヲ主トシ草葉ノ青々タル意ヲ畫クヘシ

陰影ヲ施スニ鉛筆ノミヲ以テ精密ニ塗抹スルモノアリ又最初陰影ヲ大畧塗抹シ置キ擦筆ヲ以テ摩擦シ其上ニ再ヒ濃淡ヲ適宜ニ配布スルコトアリ畫者ノ便宜ニ任ス大畫ヲナスニハ輪郭陰影共ニ燒筆ヲ用ユ又英語ニチヨリクト稱ヘ畫用ニ供ヘタル墨アリ鉛筆ヨリ色濃ク至ツテ有用ナル品ナリ然レトモ初學ノモノハ鉛筆ノ任用ヲ熟練セル後ニ用ユルモノトス鉛筆ヲヨリシ等ニテ畫キタル圖ハ牛乳ヲ平皿カ盆ニ入レ置キ圖面ヲ其中ヘ浸シ紙温ヒタル時取り出シテ乾カスヘシ又ゴム、マスチックト云フ樹脂アリ是ヲアルコイルニ浸ス時ハ容易ニ溶解スヘシ而テ此溶液ヲ圖ノ裏面ニ刷カ又ハ霧吹器ニテ注シ時ハ表面ノ墨質全ク紙面ニ布着スヘシ

明治十三年三月出版
同年同月

畫工兼
出板人

東京小石川區新小川町貳丁目
本多錦吉

19
2
128

賣 捌 書 林 印
刷

大坂心齋橋北久太郎町

柳原喜兵衛

東京神田區雉子町

巖友堂

同芝區太神前

山中市兵衛

同日本橋區通二丁目

稻田佐兵衛

同京橋區三十間堀二丁目

稻田佐吉

同同元數寄屋町四丁目

彫刻會社活版所

定價拾三錢